

**\* 東京天文台 100 周年記念誌資料—その 3-13-1—東京天文台談話会第 742 回～第 800 回の記録ノート**

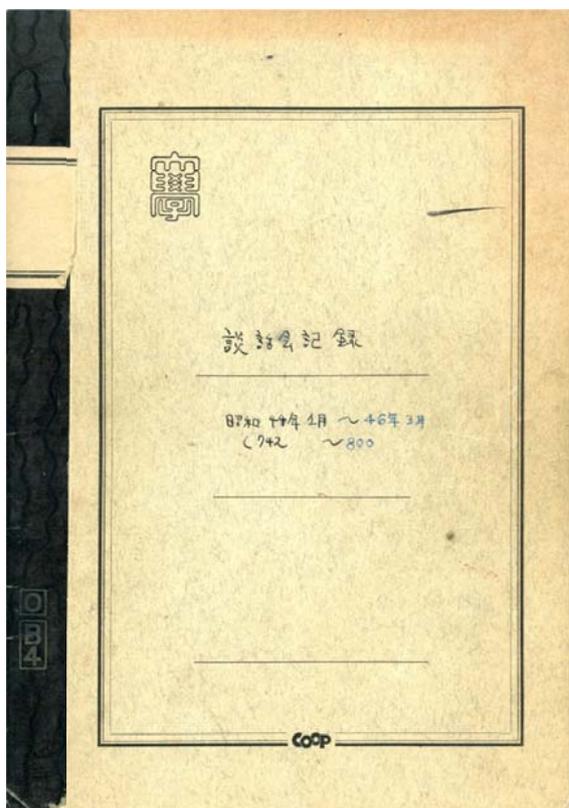
アーカイブ新聞第 793 号 (2015 年 4 月 30 日) に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料—その 3-1~6—」という記事を書いた。今回は、100 周年記念誌資料シリーズの 14 回目、談話会シリーズの第 1 回である。アーカイブ室新聞第 353 号(2010 年 6 月 21 日)号に

「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料—その 3—」という記事を書き、その中で、東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料Ⅲと書かれた段ボール箱の中のものリストを記事にした。そのリストの中に、

13. 天文台談話会記録 (昭和 44 年 1 月～46 年 3 月)、1945 年～1965 年) の入ったファイル、というものがある。東京天文台談話会記録については、談話会係をやっていた木下宙名誉教授から当時の談話会記録ノートの譲渡を受け、アーカイブ室新聞第 727 号 (2014 年 4 月 11 日) に「東京天文台談話会第 801 回～第 900 回の記録ノート」という記事を書き、第 728 号～729 号に渡って、東京天文台談話会記録 801 回から 864 回までのノートの内容を記事にした。そして 732 号～735 号に渡って、東京天文台談話会記録 865 回から 988 回までの記録ノートについて記

事を書いた。今回の東京天文台百年記念誌資料にあった東京天文台談話会記録は、この一連の談話会記録のノートであり、第 742 回 (1969 年 1 月 17 日) から第 800 回 (1971 年 3 月 26 日) の記録である。奇しくも最初の談話、第 742 回は西恵三、東康一、山口朝三氏の「太陽 UV の観測 (基礎実験)」であり、第 800 回が西恵三氏の「太陽極端紫外領域の観測」である。筆者は 1981 年 4 月から、この西先生の「真空紫外領域分光実験室」に異動し、ロケット搭載の観測装置開発グループに加わったのである。

このノートの第 1 ページ



1967年5月	青木
1967年9月～1969年5月	日江井、木下
1969年6月10日～	内田
1970年4月～1971年3月	小平、宮本、内田

には、談話会係が1967年8月までが青木信仰、1967年9月～1969年5月が日江井栄二郎～木下宙、1969年6月～1970年3月が内田豊、1970年4月～1971年3月が小平桂一、宮本昌典、内田豊と記載されている。

このノート最後のページには、談話会案内先というリストが貼られている。写真1はその一部であるが、このリストの中には個人宛もあり、この記事を書いている今は、個人情報の開示がうるさい。このリストに載った個人は既に故人であるからよかろうと思ったが、遺族がその住所にお住まいかもしれぬから載せてまかりならぬというので、写真1の続きは、個人については住所地の市相当部までとしてリストに載せる。

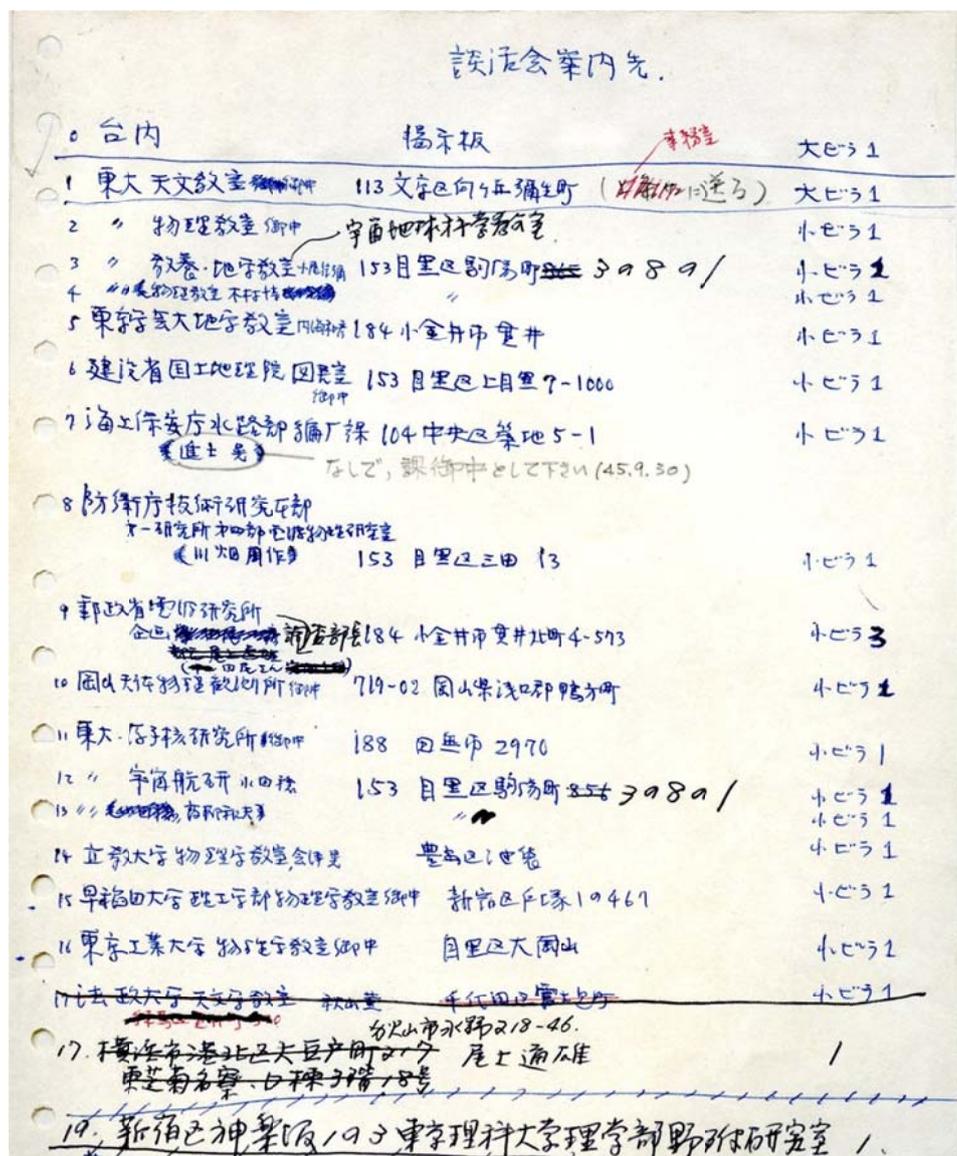


写真1 談話会の案内送付先一覧の一部

写真1のリストの続きは以下のようなものである。

萩原雄祐（目黒区）、宮地政司（調布市）、村山定男（台東区）東京大学理学部地学教室、

小暮智一（水戸市）、野辺山太陽電波観測所が載っている。

また、この談話会案内送付先の改訂版がノートに挟んであり、時の流れが見て取れる(写真 2)。定年でお辞めになった先生方の名前が数多く入っている。郵便番号が追加されていることも歴史を物語っていて、個人の住所がある先生方はすでにこの世にいないが、そのまま載せることが個人情報ということで、そのままは掲載できないのでその一部（写真 2）以下は名前の外は区市部に止めてリストを掲載しておく。

台 外 談 話 会 案 内 送 付 先

1. 東京大学理学部天文学教室	文京区向丘弥生町	113	1	113
2. 東京大学教養学部地学教室	目黒区駒場町865	153	1	153
3. 東京学芸大学 地学教室	小金井市貫井	184	1	184
4. 建設省 国工地理院 図書室	目黒区上目黒9-1000	153	1	153

113 → 113.1  
 153 → 153.1  
 184 → 184.1  
 153 → 153.1

写真 2 談話会案内送付先の改訂版の一部

写真 2 につづくリストは以下の如くである。

海上保安庁水路部（進士晃、中央区）、野附誠夫（杉並区）、萩原雄祐（目黒区）、秋山薫（練馬区）、防衛庁技術研究本部（川畑周作、目黒区）、中野三郎（文京区）、宮地政司（調布市）、鎗木政岐（武蔵野市）、東京大学教養学部物理学教室（木村博、目黒区）、大阪市立大学工学部（小塩高文、大阪市）、郵政省電波研究所（田尾一彦、小金井市）、岡山天体物理観測所（岡山県浅口郡）、東京大学原子核研究所（田無市）、東京大学宇宙航空研究所（目黒区）、東京大学宇宙航空研究所（小田稔、目黒区）、北海道大学理学部物理学教室宇宙物理学教室（札幌市）、東北大学理学部天文学教室（仙台市）、名古屋大学理学部物理学教室図書室（杉本大一郎、名古屋市9）、京都大学理学部宇宙物理学教室（京都市）、村山定男（台東区）、東京大学理学部地学教室（郡城秋捕、文京区）、東大宇宙航空研究所（高柳和夫、目黒区）。写真 2 のリストには付箋がついており、追加の送付先が見える。1）田中春夫（名古屋大学空電研究所）、2）大脇直明（船舶技術研究所内電子航法研究所）、3）立教大学、4）東京大学物理学教室である。これらも天文学の広がりという意味なのであろう。

更に写真 2 リストに加え東京天文台内部への案内の贈り先の表がある（写真 3）。

台 内 配 布 数 (郵便箱)

天 文 台	分 室	天 文 部	電 波	天 球	分 室
5	6	7	6	8	7
太陽	測光	図書	学会		
8	5	2	1		

出張 1.  
 事務 1.  
 場末 1.  
 ↓  
 + 3  
 → 計 55  
 58 → 58 → 1枚  
 計 60  
 総計 118 枚

### 写真 3 東京天文台内部配布先及び案内総数

当時の東京天文台の研究部が窺い知れる。これもまた歴史である。  
次号から、記録ノートに記された談話会記録を紹介する。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)